

令和5年度 学校だより

10月号



上郷

横浜市立上郷小学校

〒247-0026 横浜市栄区犬山町6番1号

電話 045-894-0761

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamigo/>

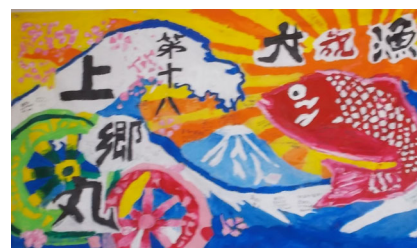
## 子どもの心には三つの「鯛」が住んでいる

校長 海津 善宜

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、秋分の日を過ぎても昼間は夏の猛暑の影響が残っているかのような日が続いています。今月から令和5年度も後半になります。6年生は、無事に修学旅行を終え、いよいよ小学校生活最後の半年となりました。一日一日を大切に、余裕をもって6年間のまとめをしてもらいたいと思います。

さて、今月は、以前に私が先輩教師から聞いたことを話題にします。それは、「子どもの心には三つの『鯛』が住んでいる」という話です。三つの鯛とは、次の通りです。

- ①【褒められ】 タイ…「よくできたね」
- ②【認められ】 タイ…「ここまでよく頑張ったね」
- ③【頼りにされ】 タイ…「ありがとう」「助かったよ」



語呂合わせにも見えますが、①と②は承認欲求、③は貢献、この三つが満たされることで子どもは自分自身が好きになり、自尊感情が高まるという内容でした。「自尊感情」とは「ありのままの自分を受け入れたり、自分を認めたりすること」です。確かにこの視点をもって接することで子どもとの関係や集団が満ち足りたものになるという経験が私にもあります。子どもだけではなく大人にもいえることで、誰もが褒められたい、認められたい、頼りにされたい…そのようにも感じたことを覚えています。また、人から褒められたり、認められたりすることを望むならば、まずは、他者を素直に褒めたり、認めたりできる心の成長が大切ということや三つの鯛は、はじめの2匹が泳ぎだせば、3匹目は自然と泳ぎだすという件も印象に残っています。

その後、ある本で興味深い話を目にしました。それは「自尊感情がなかなかもてない子どもを褒めても逆効果になる場合がある。」さらに、「自尊感情がもてない子どもをただ褒めても、褒められるようなことができない自分を受け入れられなくなり、ますます自尊感情がもてなくなる。」という内容でした。それでは、どうしたらよいのでしょうか。「自尊感情がもてない子どもには、ほめる前に時間や場所を共有し、寄り添いながら接することが一番大切。そして、それが『心の共有』につながり、子どもに安心感が生まれる。」とのことでした。私にはあまりに当然のことと感じましたが、よく考えれば「心の共有」というのは、言葉で言うほど簡単なことではありません。もしかしたら、大人は子どもを褒める時に、子どもがどんな気持ちなのか考えないまま褒めていることがあるのかもしれない。他人に褒められた時、うれしさよりも「そこじゃないんだよな。」「そういうことじゃないんだよな。」と感じた経験がある大人は少なくないと思います。子どもにとって大切なことを大人が見落としていることもあるのかもしれない。私は、褒めることは大事なことですが、その前に、子どもが過ごした時間や場所を共有し、がんばっていることや夢中になっている姿を知り、どんな気持ちで行動したり取り組んだりしていたか、それを大人が想像したり、知ろうとしたりすることが大切なのだと思います。これからも「三つの『鯛』」の視点を大切に、子どもたちが「自分が好き、友だちが好き」と思えるような学校づくりをしていきたいと思いますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

